

相変わらず、不順な天候が続いている。北海道も4回目ともなると、北海道の方言に次第に慣れてくるものだ。最初は「なげる」が「捨てる」との意味とは知らず、面食らったり、「～かい」「～っしょ」が馬鹿にされたように感じたりしたものだ。接尾語に一つの特徴があるようだ。「あずましい」「ゆるくない」等も代表的だ。「じょっぴん」等と想像も出来ない名詞があったりする。ところで、違和感を感じながらも、「〇〇で宜しかったでしょうか」と、本来ならば現在形であるべきだが、それを敢えて、過去形で表現する言い方にいつしか馴染みつつある己に驚いている。「宜しいでしょうか」よりも、より丁寧に聞こえるから不思議だ。吃驚した事にはこの春帰省した時に鹿児島でも使っており、言語の伝播力に感嘆した次第。

もう一点吃驚した事がある。それは、演習場からの帰りに菜の花を見たことだ。何故、今頃菜の花が咲いているのかと不思議に思ったものだが、本日のテレビでその疑問が氷解した。それは菜の花ではなく、キガラシと言う菜の花と同じ仲間の花で、緑肥にするものだそう。

閑話休題し、30号のテーマに戻ろう。

根釧警備隊区は15市町村である。根釧即ち釧路支庁と根室支庁である。先号に引き続き管内市町村名の由来です。

- ① 厚岸町：厚岸は、アイヌ語「アッケシイ」より転訛したもので、牡蠣(かき)のある所の意である。
- ② 浜中町：砂浜が長く続き、海岸線数キロの中央に市街を形成しているので、浜中と命名された。
- ③ 標茶町：標茶はアイヌ語「シベツチャ」より、転訛したもので、大川端の丘陵という意である。
- ④ 阿寒町：道東唯一の阿寒国立公園を有し、その美麗雄大なる永遠の景勝と躍進的村を象徴するため、阿寒の名前を取り命名した。
- ⑤ 鶴居村：釧路天然記念物丹頂鶴の棲息地であるに因み、村名を鶴居とした。
- ⑥ 白糠町：白糠は、アイヌ語「シライカ」から転訛したものである。「シララ」とは、潮、「イカ」とは、溢るるという意で、即ち潮の溢れる所という意である。シライカが「シラリカ」と直音され、これより「シラヌカ」と訛ったものがある。
- ⑦ 音別町：音別はアイヌ語「オンペット」より転訛したもので、谷川に魚族が棲息した言う意である。
- ⑧ 弟子屈町：弟子屈は、アイヌ語「テシュカガ」から始まったもので、秋になって、鮭をとるために川に杭をうとうとしても川底の盤のために杭が打てないとの意。

- ⑨ 別海町：別海は、アイヌ語「ペツイイェ」より転訛したもので、氷の中にあるというであり、海に浮かぶ流氷をさしたものと思われる。
- ⑩ 標津町：標津は、アイヌ語「シベツ」より生じたもので、鮭の多く居るところという意である。
- ⑪ 中標津町：標津の中位にあるので中標津と命名した。
- ⑫ 羅臼町：羅臼はアイヌ語「ラウシ」より転訛したもので、獣の骨のある所と言う意である。この地一帯は、アイヌの狩猟の地であったのでこの名が起こった。
- ⑬ 根室市：根室はアイヌ語「ネモロ」より転訛したもので、樹木が繁茂しているという意である。
- ⑭ 釧路町：大正9年7月1日釧路市より分村したので、釧路村と命名した。現在は町
- ⑮ 釧路市：アイヌ語の「クシベツ」或いは「クシナイ」が語源に当たり、「通り抜けることの出来る川」の意である。尚、「釧」には、腕輪という意味もある。